

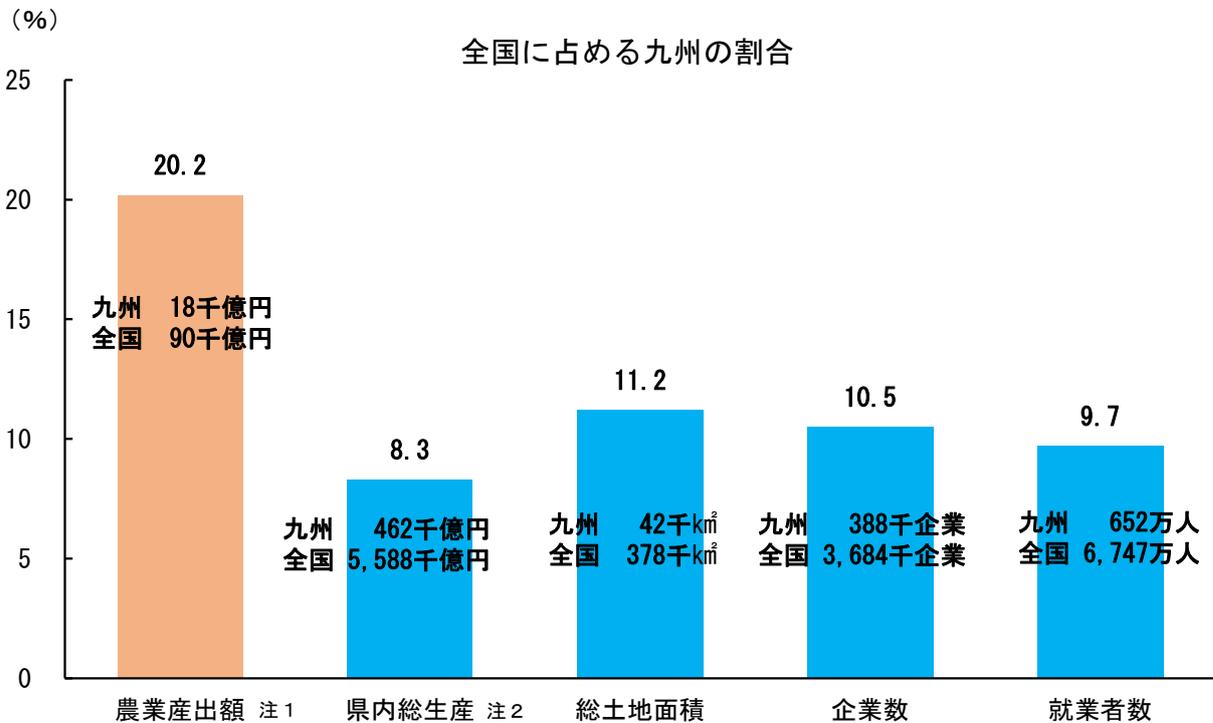
第2章 統計から見たい

構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

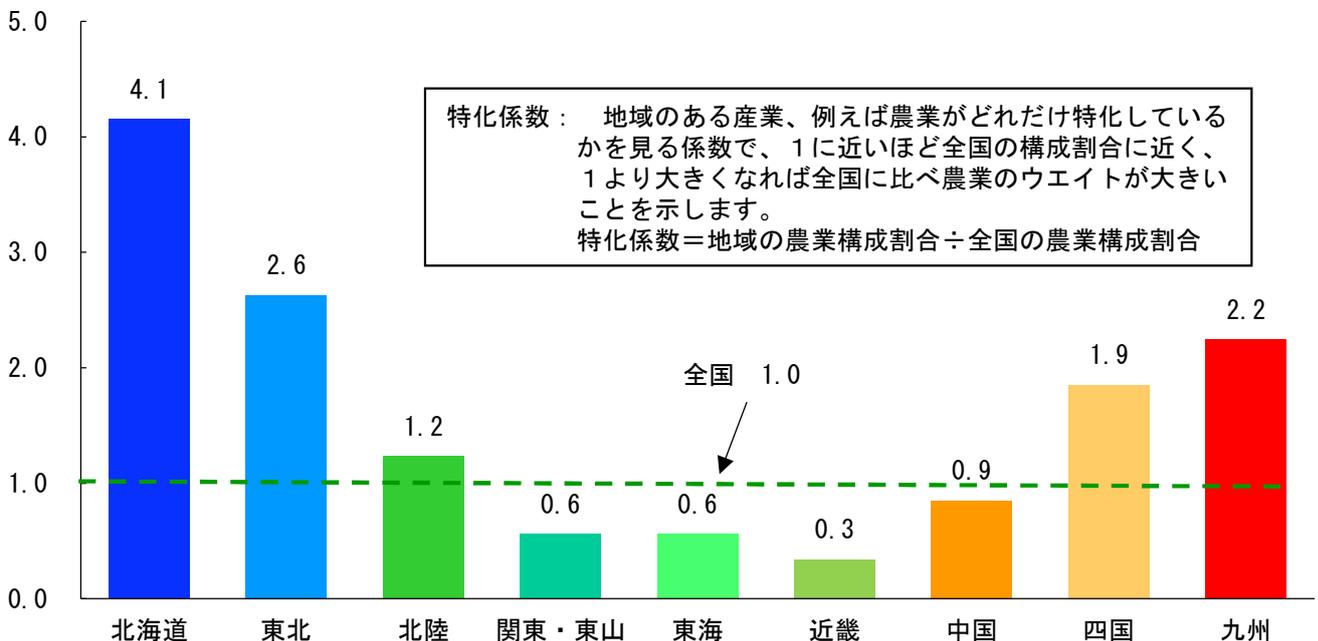
また、県民経済計算(県内総生産)の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であることが分かります。



資料：農林水産省「令和4年生産農業所得統計」、内閣府「令和2年県民経済計算」
 国土地理院「令和5年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和3年経済センサス活動調査」
 総務省統計局「令和5年労働力調査」

注：1 農業産出額は、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格（消費税を含む。）を乗じて求めたもの。なお、農業産出額の全国は都道府県計。
 2 県内総生産の全国は全県計（都道府県計）。

県民経済計算からみた農業の特化係数



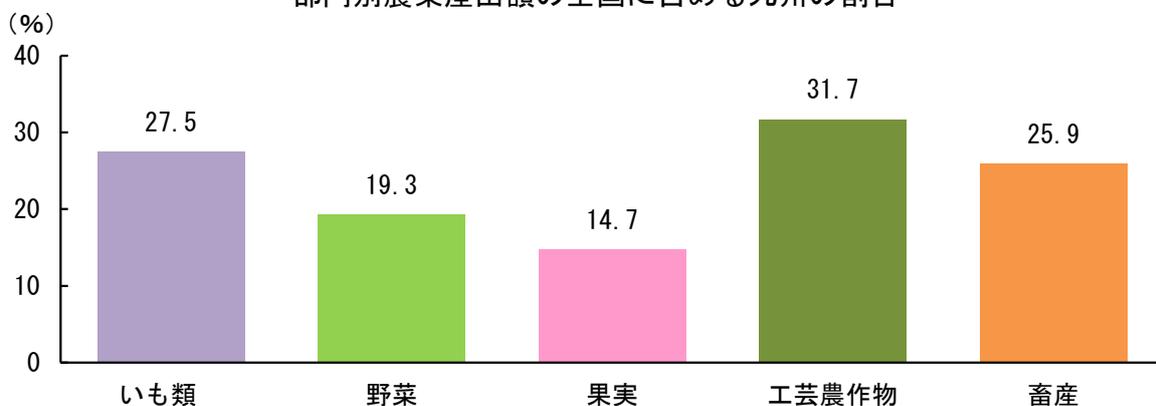
資料：内閣府「令和2年県民経済計算」

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

九州の部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、いも類、工芸農作物、畜産では約3割、野菜では約2割を占めています。

また、みかんやしらぬい（デコポン）など果実の生産も盛んです。

部門別農業産出額の全国に占める九州の割合



主な品目別農業産出額の全国に占める九州の割合

単位：億円、%

部門	品目名	農業産出額 (全国)	農業産出額 (九州)	全国 シェア	九州における1位		
					県名	農業 産出額	全国 シェア
いも類	かんしょ	1,111	310	27.9	鹿児島	164	14.8
	ばれいしょ	1,012	273	27.0	鹿児島	141	13.9
野菜	トマト	2,302	576	25.0	熊本	376	16.3
	いちご	2,019	699	34.6	福岡	242	12.0
	きゅうり	1,251	289	23.1	宮崎	163	13.0
	なす	755	177	23.4	熊本	97	12.8
	メロン	655	140	21.4	熊本	117	17.9
	すいか	631	142	22.5	熊本	114	18.1
	ピーマン	538	196	36.4	宮崎	110	20.4
果実	みかん	1,557	476	30.6	熊本	147	9.4
	しらぬい（デコポン）	177	122	68.9	熊本	87	49.2
	キウイフルーツ	101	29	28.7	福岡	20	19.8
	マンゴー	89	63	70.8	宮崎	50	56.2
	なつみかん	43	28	65.1	鹿児島	17	39.5
工芸農作物	茶（生葉）	471	223	47.3	鹿児島	154	32.7
	さとうきび	295	128	43.4	鹿児島	128	43.4
	葉たばこ	190	105	55.3	熊本	43	22.6
畜産	肉用牛	7,912	3,199	40.4	鹿児島	1,228	15.5
	豚	6,775	2,042	30.1	鹿児島	909	13.4
	ブロイラー	3,940	2,022	51.3	鹿児島	889	22.6

資料：農林水産省「令和4年生産農業所得統計」

構造 — 農業産出額 —

【農業産出額は対前年1.7%の増加】

令和4(2022)年の九州の農業産出額は1兆8,208億円で、主食用米において生産量の減少に加えて価格の低下がみられたものの、主にいちご及びたまねぎの価格が上昇したことに加えて価格が高水準となった輸入鶏肉の代替需要が重なりブロイラー価格が上昇したこと等から、対前年増減率は1.7%増加しました。

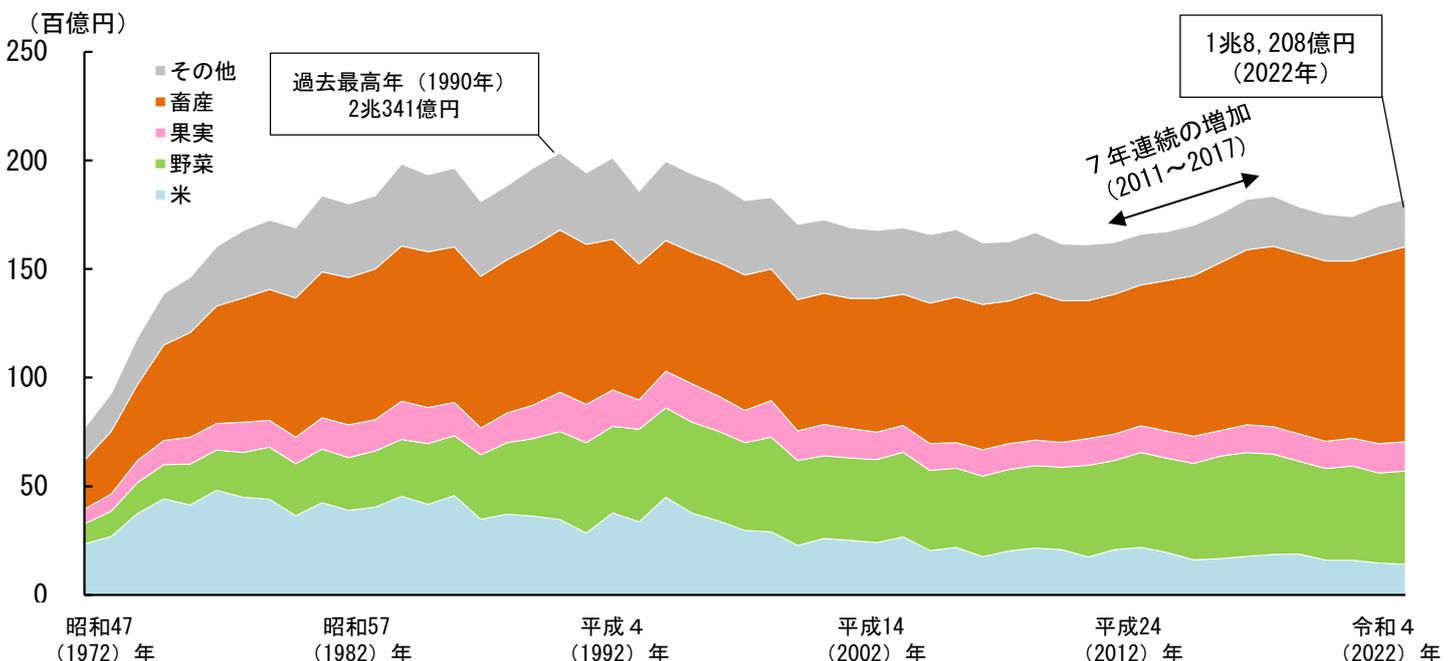
過去50年の農業産出額をみると、平成2(1990)年をピークに減少傾向で推移していたものの、平成23(2011)年以降は7年連続で増加しました。その後、平成30(2018)年以降は減少傾向で推移していましたが、令和3(2021)年以降は増加に転じています。

農業産出額（九州）

区分	令和3(2021)年		令和4(2022)年		対前年増減率(%)
	実額(億円)	構成割合(%)	実額(億円)	構成割合(%)	
農業産出額	17,905	100.0	18,208	100.0	1.7
耕種計	8,982	50.2	9,065	49.8	0.9
うち					
米	1,469	8.2	1,408	7.7	▲4.2
麦類	75	0.4	75	0.4	0.0
豆類	36	0.2	40	0.2	11.1
いも類	616	3.4	583	3.2	▲5.4
野菜	4,141	23.1	4,298	23.6	3.8
果実	1,349	7.5	1,353	7.4	0.3
花き	600	3.4	667	3.7	11.2
工芸農作物	535	3.0	492	2.7	▲8.0
畜産計	8,751	48.9	8,978	49.3	2.6
うち					
肉用牛	3,169	17.7	3,199	17.6	0.9
乳用牛	804	4.5	771	4.2	▲4.1
豚	2,008	11.2	2,042	11.2	1.7
鶏	2,719	15.2	2,908	16.0	7.0
加工農産物	172	1.0	166	0.9	▲3.5

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

過去50年の農業産出額の推移（九州）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

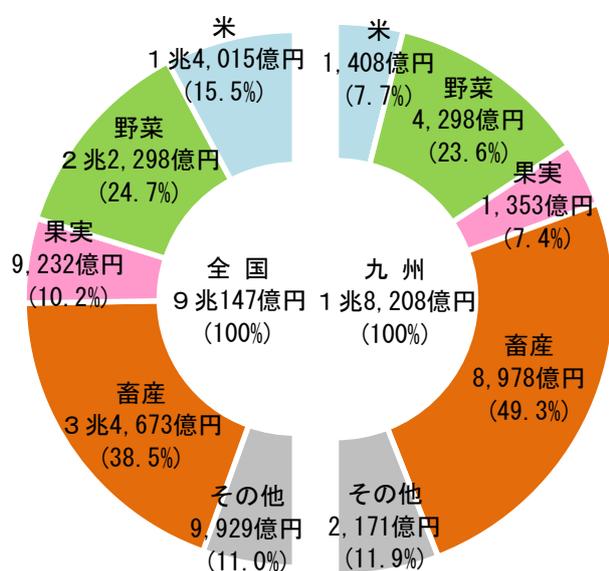
【畜産や野菜が盛ん】

部門別にみると、九州は全国に比べて米の割合が低く(全国15.5%、九州7.7%)、畜産の割合が高くなっています(全国38.5%、九州49.3%)。このほか、温暖な気候を活かし、野菜や果実の生産など多様な農業が展開されています。

50年前と比べると、九州では、昭和47(1972)年は30.5%だった畜産が令和4(2022)年には49.3%へと、野菜は12.1%から23.6%へと大幅に増加しました。一方、米は30.7%から7.7%へと大幅に減少し、時代とともに米を中心とした農業から野菜、畜産を中心とする農業へと推移しています。この推移は、全国と同じ傾向です。

その結果、農業産出額の全国上位10県に畜産や野菜の生産が盛んな鹿児島県、熊本県、宮崎県の3県がランクインしています。

農業産出額部門別割合 (令和4(2022)年)



資料：農林水産省「令和4年生産農業所得統計」

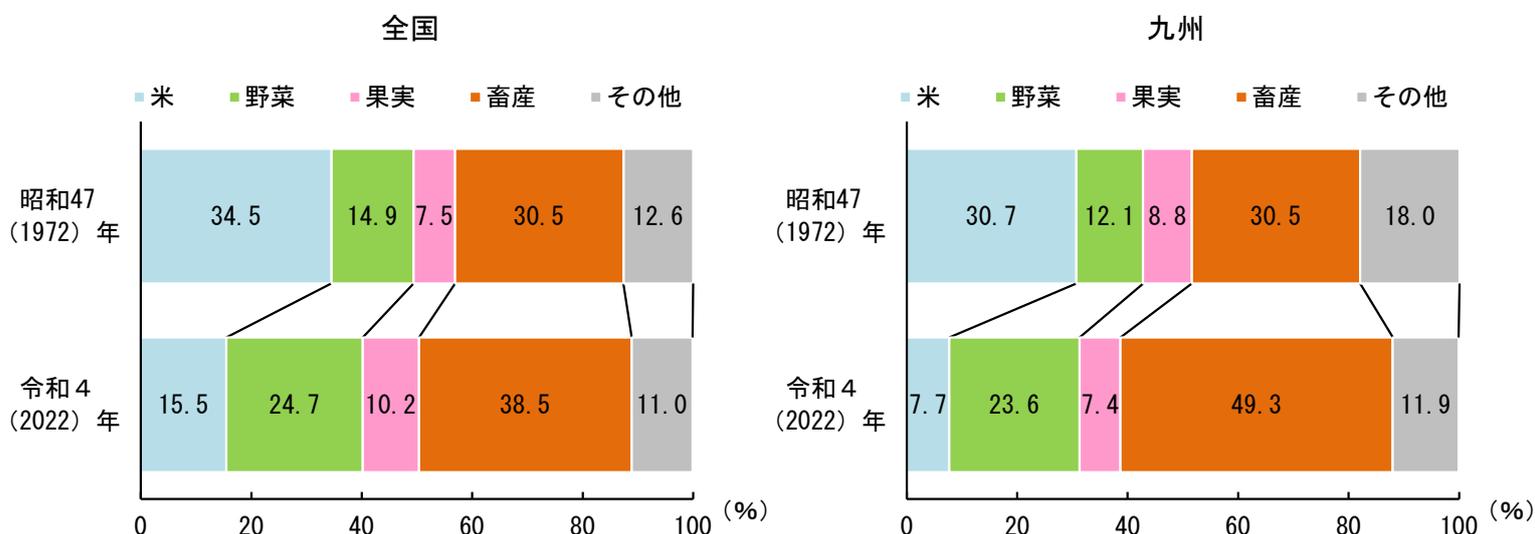
農業産出額全国上位10県 (令和4(2022)年)

単位：億円

順位	都道府県名	農業産出額
1位	北海道	12,919
2位	鹿児島	5,114
3位	茨城	4,409
4位	千葉	3,676
5位	熊本	3,512
6位	宮崎	3,505
7位	青森	3,168
8位	愛知	3,114
9位	栃木	2,718
10位	長野	2,708

資料：農林水産省「令和4年生産農業所得統計」

50年前の農業産出額の部門別構成割合との比較 (全国・九州)



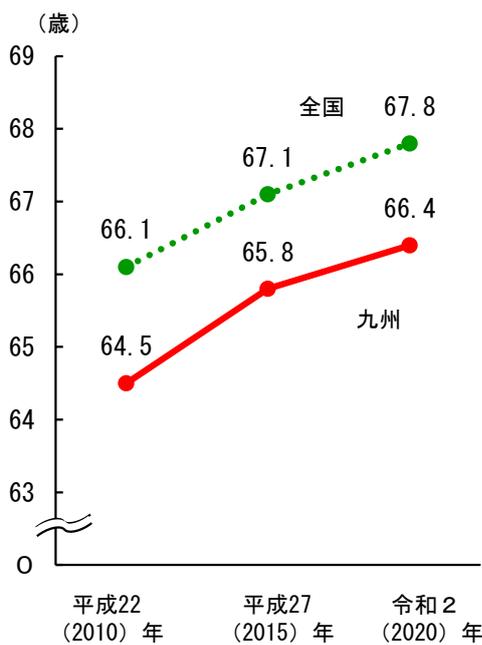
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

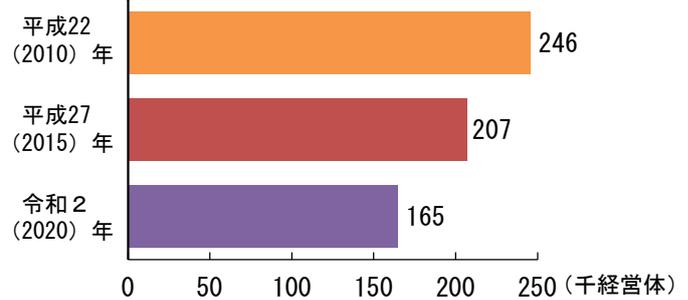
九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は165千経営体であり、10年前に比べて約3割減少しましたが、法人化している経営体は1.5千経営体(37%)増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。

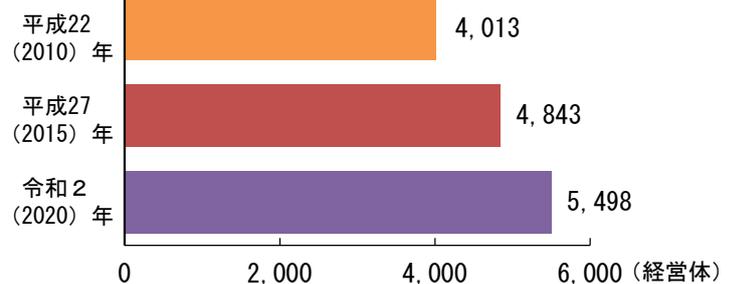
基幹的農業従事者平均年齢



農業経営体数の推移 (九州)



農業経営体数のうち法人経営体数の推移 (九州)



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

基幹的農業従事者平均年齢

平成22 (2010) 年は販売農家の数値、平成27 (2015) 年、令和2 (2020) 年は個人経営体の数値。

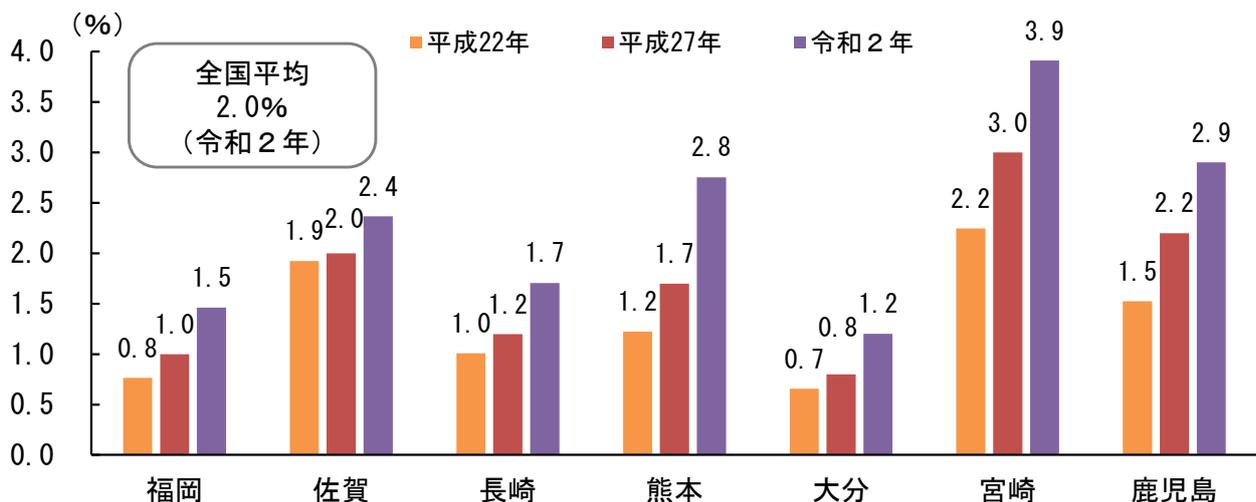
農業経営体

経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

法人経営体

農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合



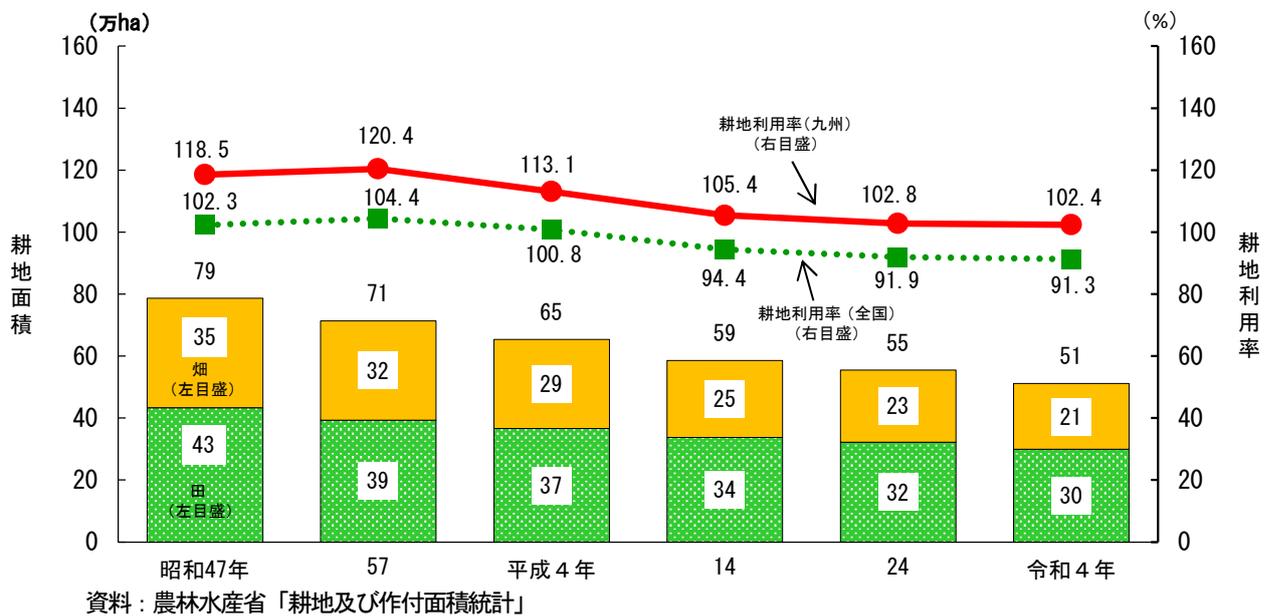
資料：農林水産省「農林業センサス」

構造 — 耕地面積 —

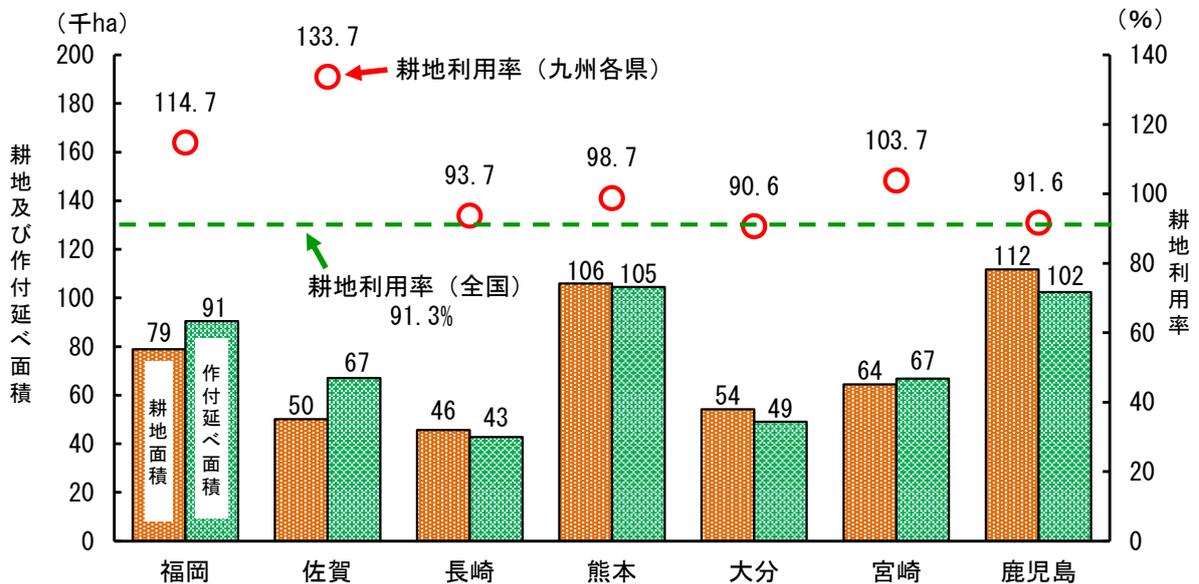
【耕地面積は51万1,100ha、耕地利用率は102.4%】

九州の耕地面積は、全国(433万ha)の約1割を占めています。
 担い手の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等の理由により、平成4(1992)年からおよそ14万ha減少していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、ここ近年の減少幅は緩やかになってきています。
 耕地利用率は全国平均91.3%を上回る102.4%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作(麦)が行われ、宮崎県では飼料作物の作付けが年間複数回行われることから100%を大きく上回っています。

耕地面積と耕地利用率の推移 (九州)



耕地及び作付延べ面積と耕地利用率 (令和4(2022)年)



生産 — 米 —

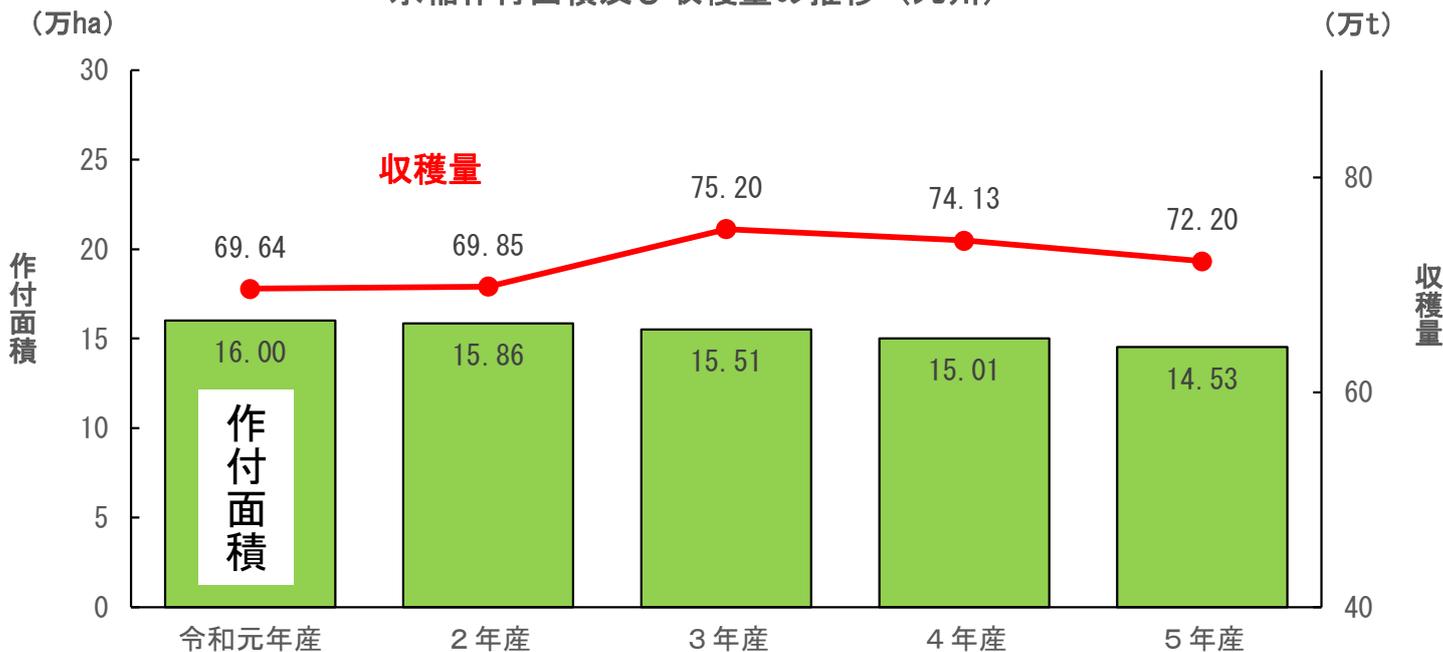
【水稲の収穫量(子実用*)は72万2,000 t (前年産に比べ19,300 t 減少)】

令和5(2023)年産水稲の九州の作付面積(子実用)は、14万5,300haで前年産に比べ4,800 ha減少しました。そのため、収穫量(子実用)は、前年産から19,300 t 減少し72万2,000 t となりました。作柄は、全もみ数がやや少ないものの、出穂期以降の天候に恵まれ登熟は良となり「平年並み」(作況指数101)となりました。

「令和5年産米の食味ランキング((一財)日本穀物検定協会)では、九州で9銘柄が最高評価の「特A」を獲得しています。

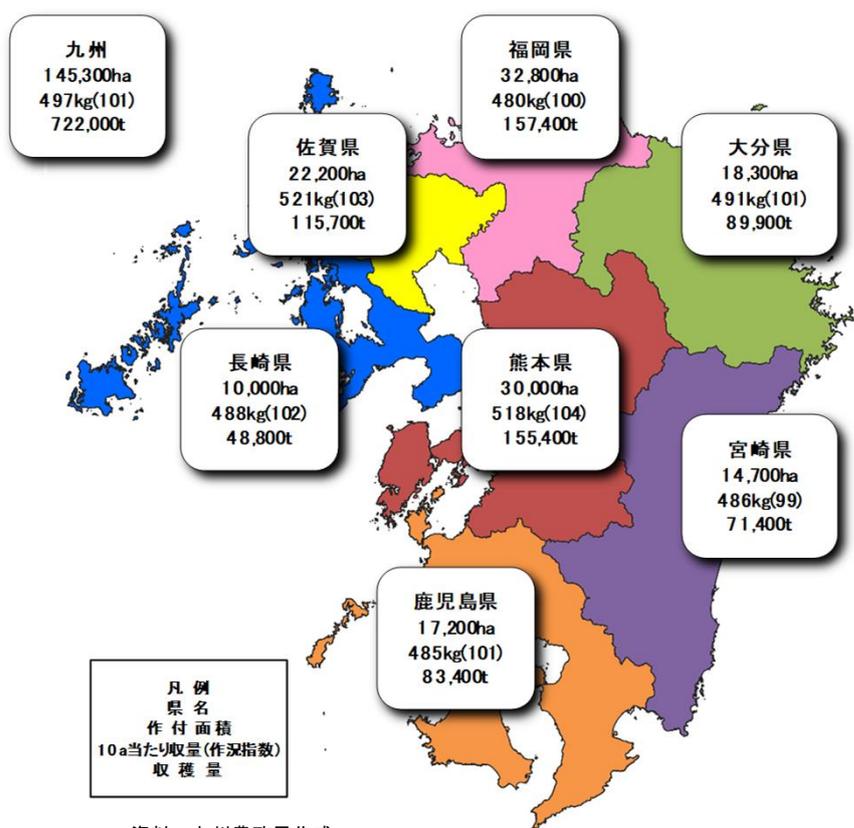
* 主に食用に供すること(子実生産)を目的とするものをいい、全体から「青刈り」を除いたものをいう。

水稲作付面積及び収穫量の推移(九州)



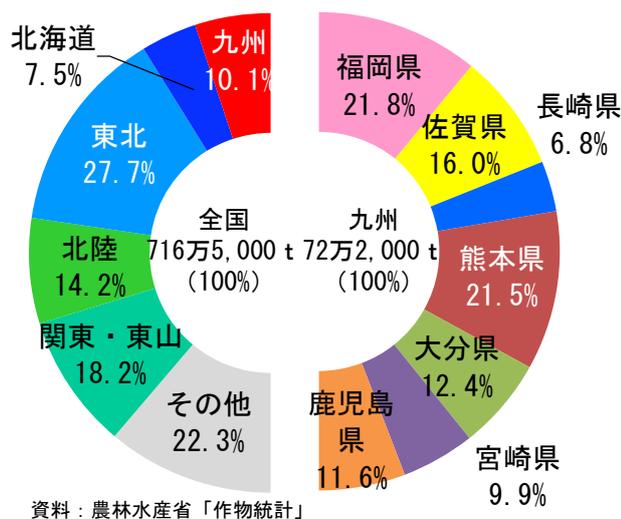
資料：農林水産省「作物統計」

県別作付面積及び収穫量



資料：九州農政局作成

令和5(2023)年産 収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

令和5(2023)年産食味試験結果 (九州特A一覧)

産地	品 種 名	地 区
福岡県	元気つくし	
佐賀県	さがびより	
	夢しずく	
長崎県	にこまる	
熊本県	森のくまさん	県北
	ヒノヒカリ	豊肥
大分県	ひとめぼれ	西部
	つや姫	
鹿児島県	あきほなみ	県北

資料：(一財)日本穀物検定協会

生産 — 麦類・大豆 —

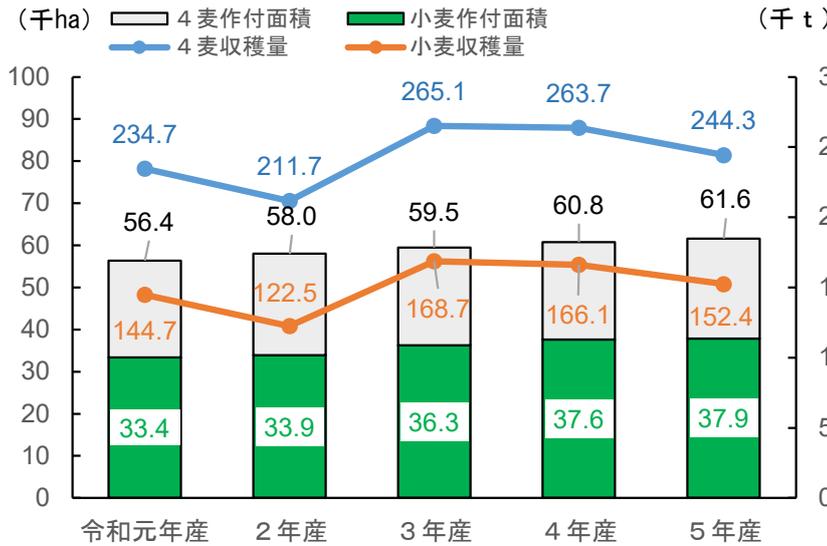
【4麦の収穫量は、前年産に比べ19,400 t 減少】

令和5(2023)年産4麦計(子実用*) (小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦)の作付面積は6万1,600haで前年産に比べ800ha増加、収穫量は24万4,300 tで、前年産に比べ1万9,400 t減少しました。九州の全国に占める割合は18.4%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

4麦の中で最も多い小麦の作付面積は、3万7,900haで前年産に比べ300ha増加し、収穫量は15万2,400 tで前年産に比べ1万3,700 t減少しました。

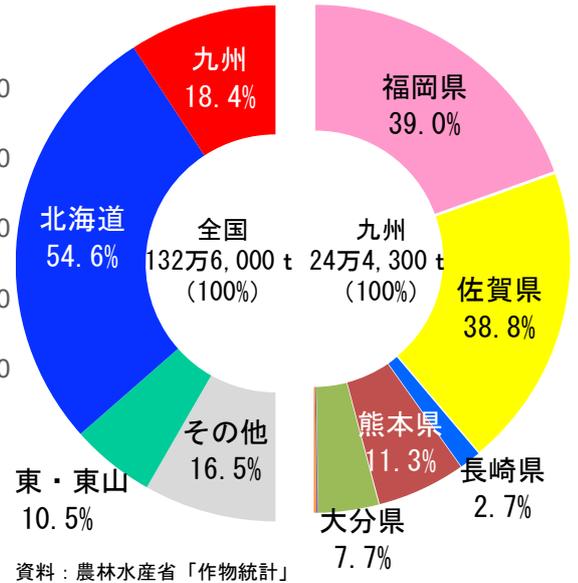
* 主に食用にすること(子実生産)を目的とするものをいう。

作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

令和5(2023)年産 収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

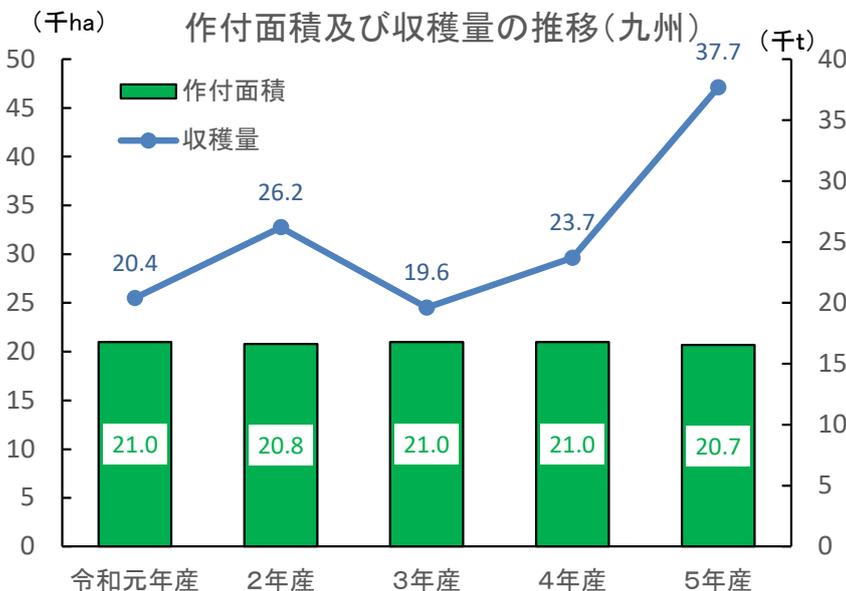
【大豆の収穫量は、前年産に比べ1万4,000 t 増加】

令和5(2023)年産大豆(乾燥子実*)の作付面積は2万700haで前年産から300ha減少しました。収穫量は3万7,700 tで生育期間がおおむね天候に恵まれ、着さや数が多くなり前年産に比べ1万4,000 t増加しました。

九州の全国に占める割合は約15%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

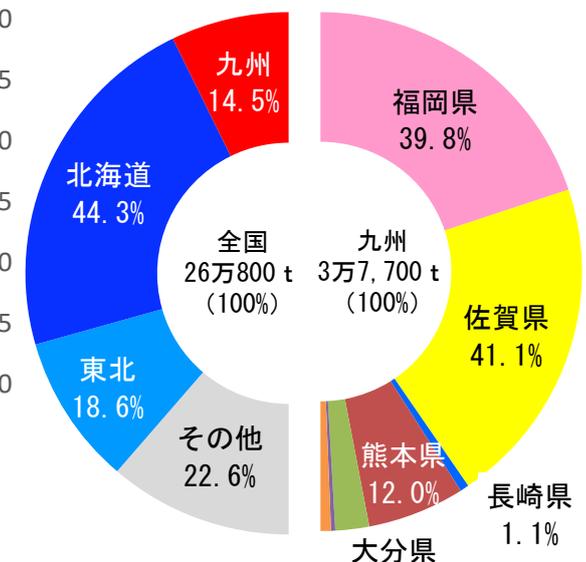
* 食用を目的に未成熟(完熟期以前)で収穫されるもの(えだまめ)を除いたものをいう。

作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

令和5(2023)年産 収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

生産 — 野菜 —

【九州は重要な野菜供給基地】

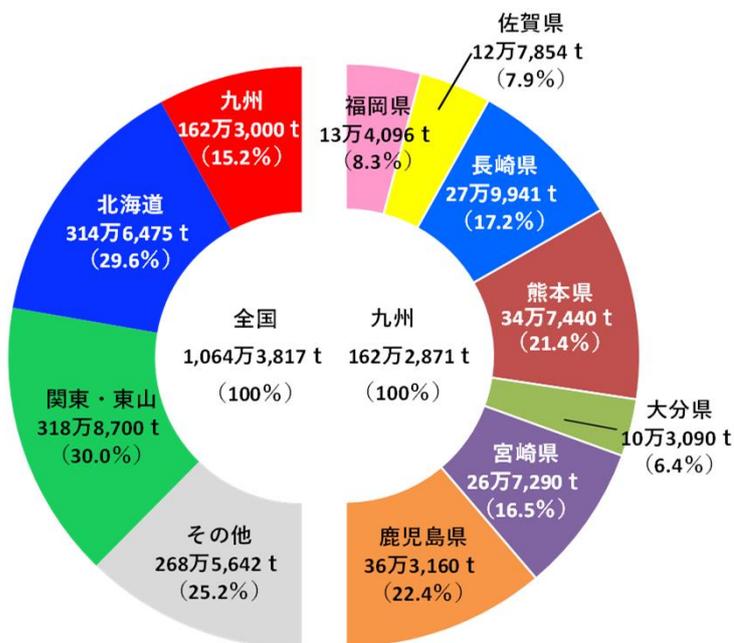
九州では、温暖な気候を生かした野菜の栽培が盛んです。令和4(2022)年産の九州における指定野菜(14品目*)の収穫量は、ピーマン、トマト等の施設野菜やさといも、だいこん等の露地野菜を中心に全国の15.2%、野菜の産出額では全国の19.3%を占めています。九州の産出額に占める野菜の割合は23.6%で、畜産の49.3%に次ぐ重要な品目となっています。

産出額で全国に占める割合が高い品目は、ピーマン(36.4%、宮崎県全国2位、鹿児島県全国4位)、ばれいしょ(27.0%、鹿児島県全国2位、長崎県全国3位)、トマト(25.0%、熊本県全国1位)、なす(23.4%、熊本県全国2位、福岡県全国4位)の順となっています。

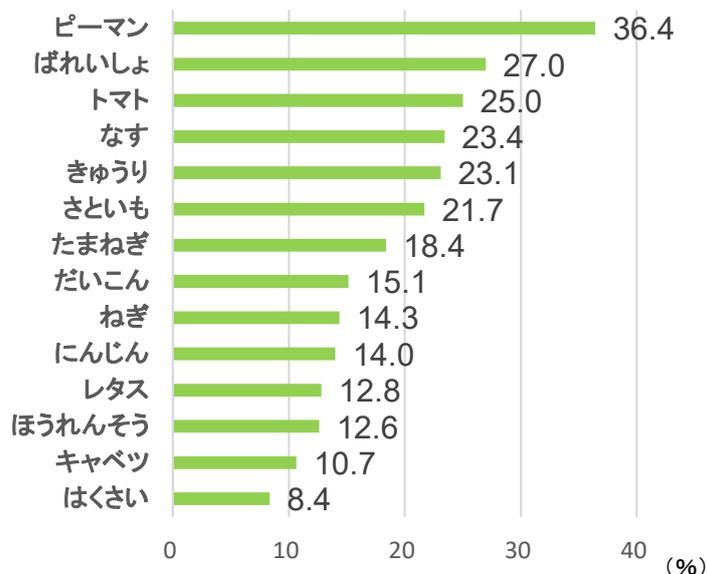
指定野菜以外では、いちご(34.6%、福岡県全国2位、熊本県全国3位、長崎県全国4位)、かんしょ(27.9%、鹿児島県全国3位、宮崎県全国5位)、すいか(22.5%、熊本県全国1位)などです。

* 指定野菜とは、野菜のうち特に消費量の多いもの(下右のグラフの14品目)

令和4(2022)年
指定野菜収穫量の全国及び九州内割合



令和4(2022)年
九州の指定野菜産出額の全国シェア



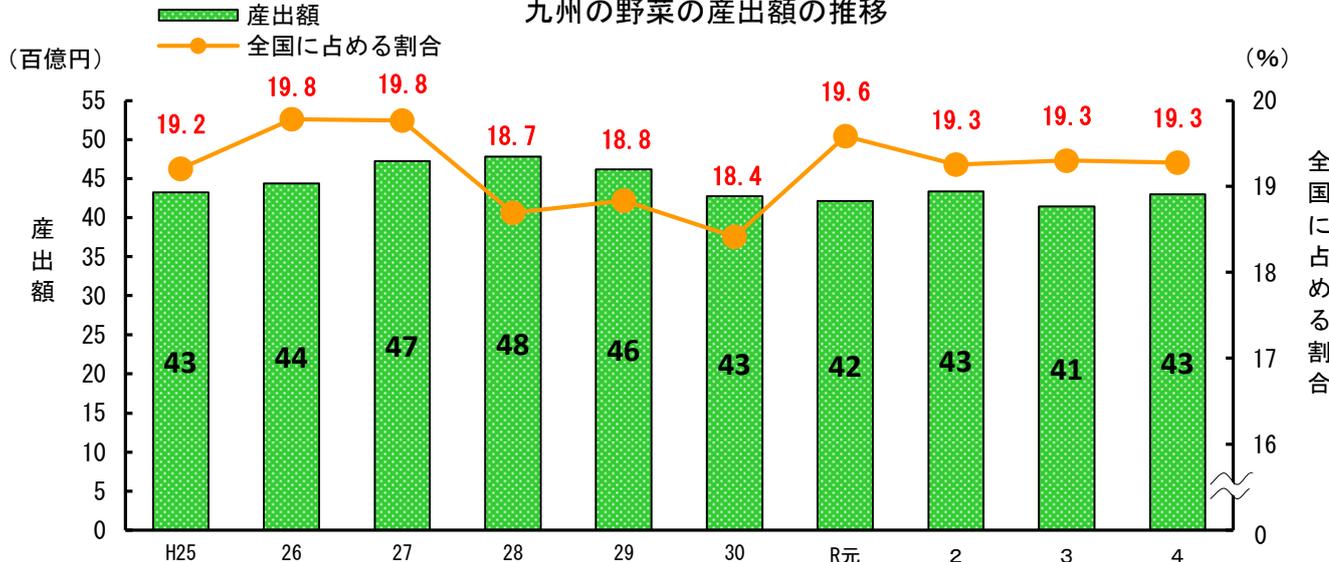
資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

注：野菜生産出荷統計結果を基に九州農政局において指定野菜を集計した値

ラウンドにより計と内訳が一致しない場合がある

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

九州の野菜の産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

生産 — 果樹 —

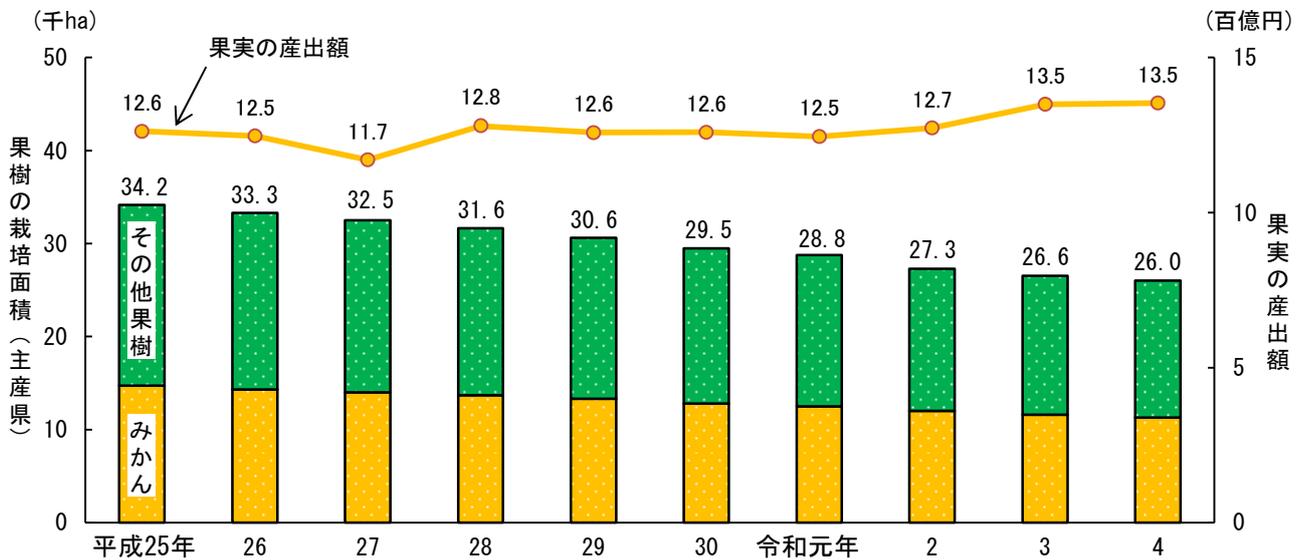
【栽培面積は減少傾向にあるものの産出額は微増】

九州における果樹の栽培面積（主産県*）は、高齢化や担い手不足による栽培農家数の減少に伴う緩やかな減少傾向にあり、令和4（2022）年は2万6,000haとなっています。一方、果実の産出額は、1,353億円とやや増加しました。この背景として需要の減少より生産量が減少していることや高品質な果実が生産されていることが考えられます。

九州が全国の収穫量の約3割を占めるみかんでは、結果樹面積が1万900haで前年産に比べ200ha（1.8%）減少したことに加え、着果数が少なかったこと等から、収穫量は19万8,400 tで前年産に比べ4万2,200 t（17.5%）減少しています。また、九州の収穫量のうち、熊本県、長崎県、佐賀県で8割近くを占めています。

その他果実の産出額は、ぶどう194億円（全国の10.1%、福岡県全国5位）、不知火（デコポン）122億円（同68.9%、熊本県同1位）、日本なし113億円（同16.5%、福岡県同7位、熊本県同8位、大分県同9位）、マンゴー63億円（同70.8%、宮崎県同1位、鹿児島県同3位、熊本県同4位）となっています。

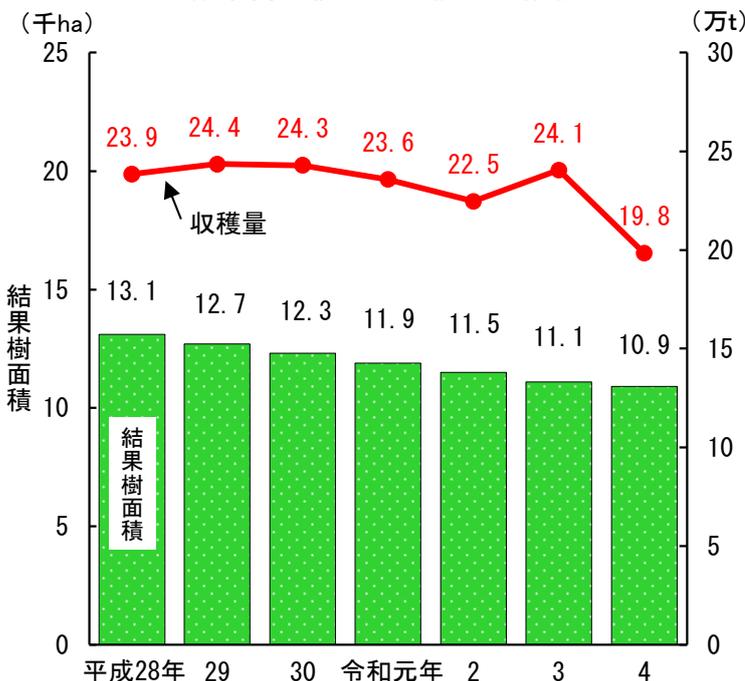
* 主産県とは、全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県



資料：農林水産省「生産農業所得統計」「耕地及び作付面積統計」

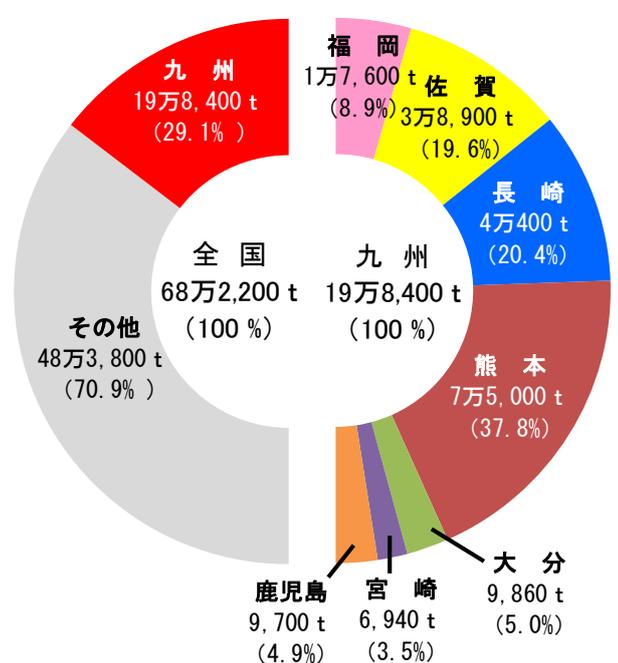
注：その他果樹は、その他のかんきつ類、くり、かき、日本なし、ぶどう、うめ、びわ、キウイフルーツ、すもも

みかん結果樹面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

令和4年産 みかん収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

注：全国地域別は、農政局毎の割合を表示しています。

生産 — 花き —

【産出額は回復傾向、栽培面積は漸減傾向】

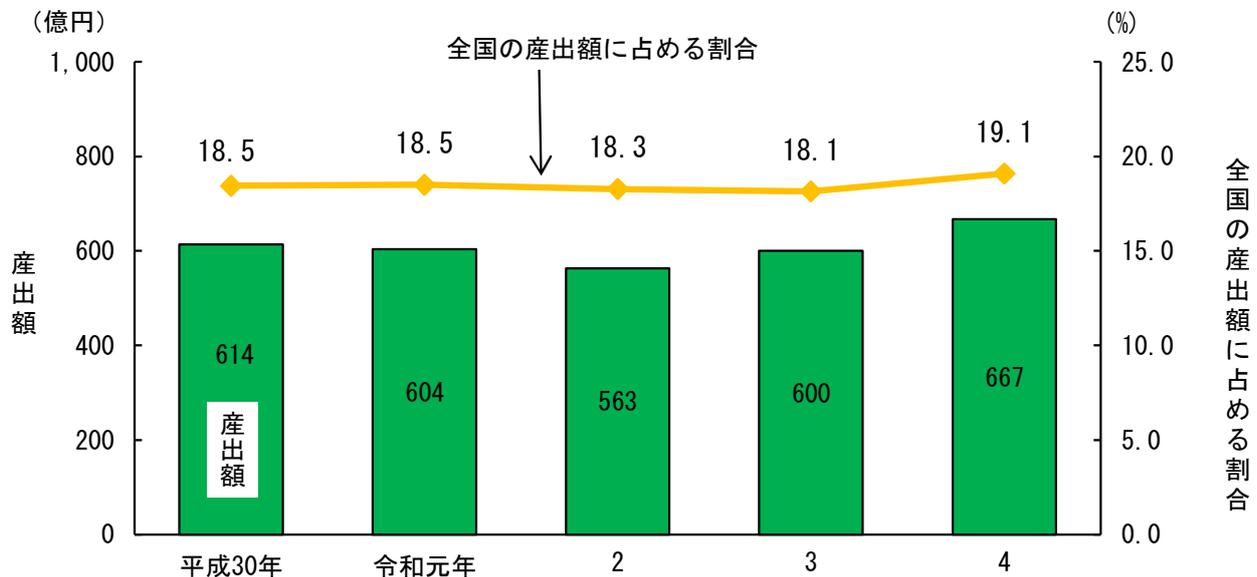
九州における令和4(2022)年の花きの産出額は、全国の19.1%を占める667億円で、前年に比べ産出額が回復しました。これは、新型コロナウイルス感染症対策の緩和によるイベント需要が高まったこと等が影響したものと考えられます。

一方、令和4(2022)年産切り花の作付面積は2,290haで、前年に比べ50ha(2.1%)減少しています。生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることを背景に、近年漸減傾向で推移しています。

出荷量は6億1,860万本で、前年に比べ3,390万本(5.2%)減少しているものの、そのシェアは全国の19.7%を占めています。

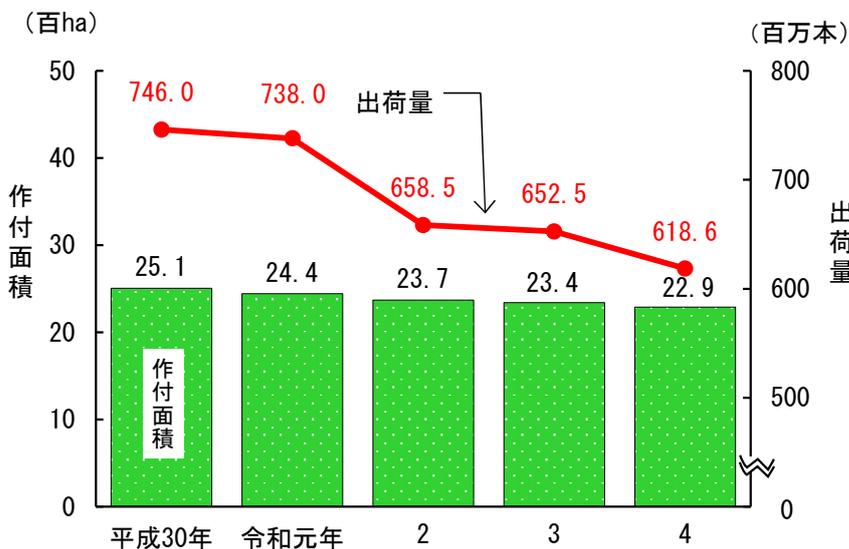
県別の出荷量をみると、洋ランやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、きくやゆり等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の44.4%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移



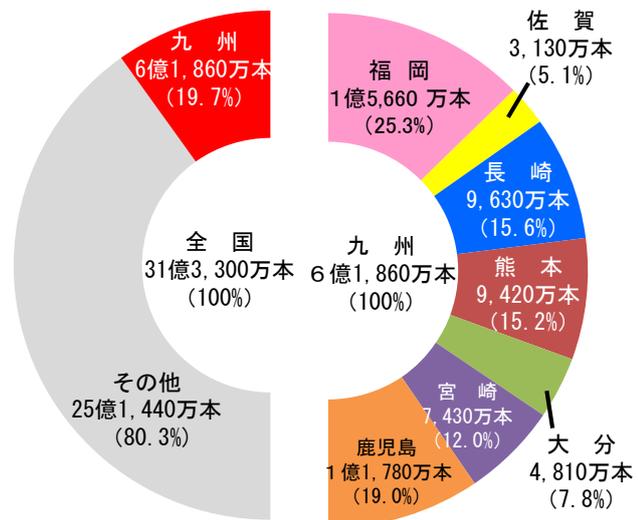
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き(切り花類)作付面積及び出荷量の推移(九州)



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

令和4(2022)年産花き(切り花類)出荷量の全国及び九州内割合



生産 — 地域特産作物 —

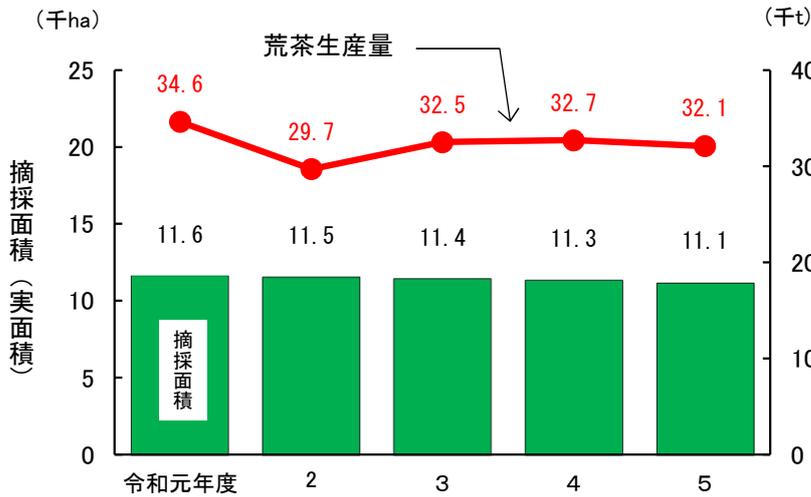
【茶：九州（主産県）の荒茶生産量は、全国（主産県）の約5割を占める】

九州（主産県*）の令和5（2023）年産茶の摘採面積は1万1,100haで前年産並みとなっており、荒茶生産量も3万2,100tで前年産並みとなっています。

九州（主産県）の荒茶生産量は全国（主産県）の47.2%を占めており、その中でも鹿児島県は、九州全体の8割以上を占めるなど、全国第2位の産地が形成されています。その他、宮崎県、福岡県でも、煎茶やかぶせ茶等の生産、加工が盛んです。

* 九州（主産県）は、福岡、熊本、宮崎、鹿児島の合計値

茶摘採面積及び荒茶生産量の推移（九州（主産県））

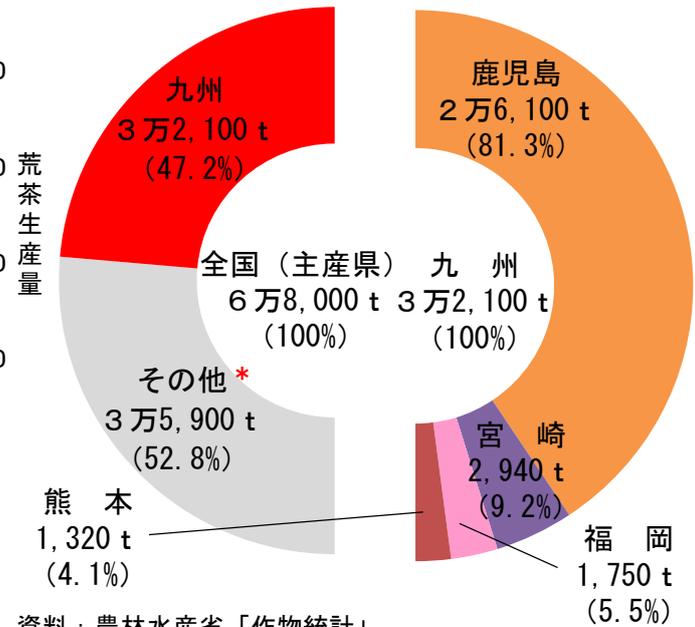


資料：農林水産省「作物統計」

注1：四捨五入（5桁（10,000）の場合下2桁、4桁（1,000）の場合下1桁）により合計値と内訳の計が一致しない。

注2：令和3年産からは概数値を使用。

令和5（2023）年産
荒茶生産量の全国（主産県）及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

* その他は、静岡、三重、京都、埼玉の合計値

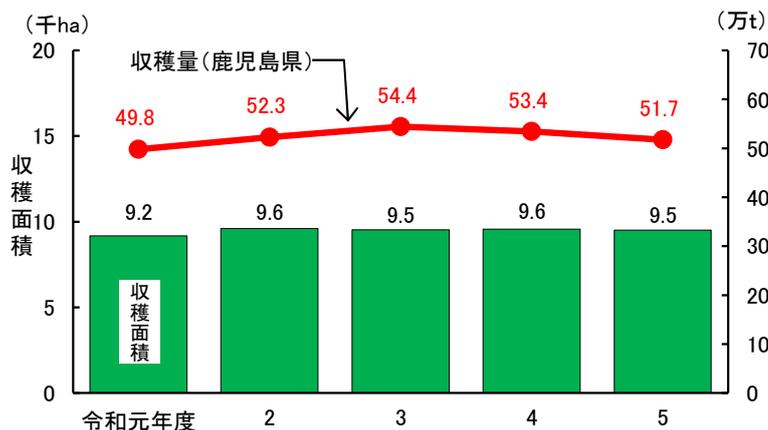
【さとうきび：鹿児島県南西諸島の基幹的作物】

さとうきびは、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の基幹作物として栽培されています。

近年、鹿児島県のさとうきび収穫面積は横ばい傾向で推移しており、令和5（2023）年産の収穫面積は9,510haとなっています。

一方、収穫量は年間を通して少雨だったことにより生育が抑制されたことから、前年産に比べてやや減少し、51万7,300tとなっています。

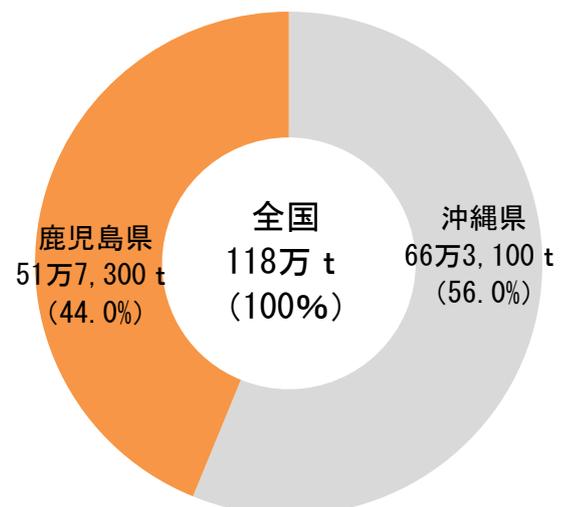
さとうきび収穫面積及び収穫量の推移（鹿児島県）



資料：農林水産省「作物統計」

注：令和5年産は概数値である。（8月に確定予定）
四捨五入（7桁（1,000,000）の場合下3桁）により合計値と内訳の計が一致しない。

収穫量の全国シェア（令和5（2023）年）



資料：農林水産省「作物統計」

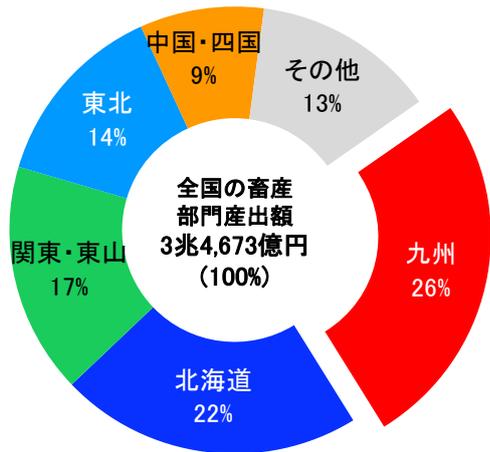
生産 — 畜産 —

【日本最大の畜産地帯】

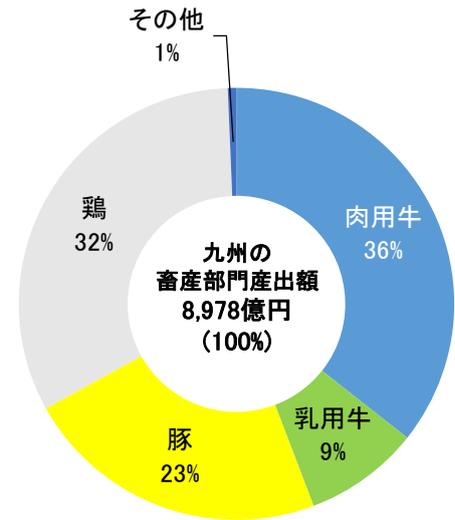
九州の畜産部門の農業産出額は、全国の約26%を占めており、畜種別では、高い順に肉用牛、鶏(鶏卵及びブロイラー)、豚、乳用牛となっています。

また、九州は、肉用牛、豚及びブロイラーの畜種別農業産出額の割合は、それぞれ全国の約4割、約3割、約5割を占め、農業地域別で全国1位の生産地域であり、我が国最大の食肉供給基地となっています。

農業産出額の畜産部門の全国割合
(令和4(2022)年)



九州の畜産部門産出額の畜種別割合
(令和4(2022)年)



畜種別

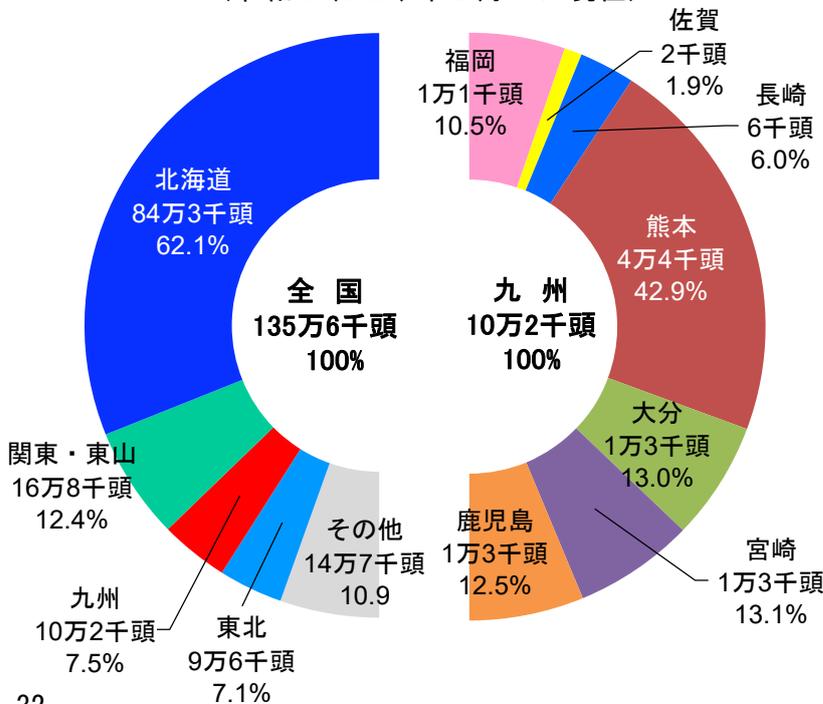
資料:農林水産省「生産農業所得統計」

注: 数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります(以下同じ)。

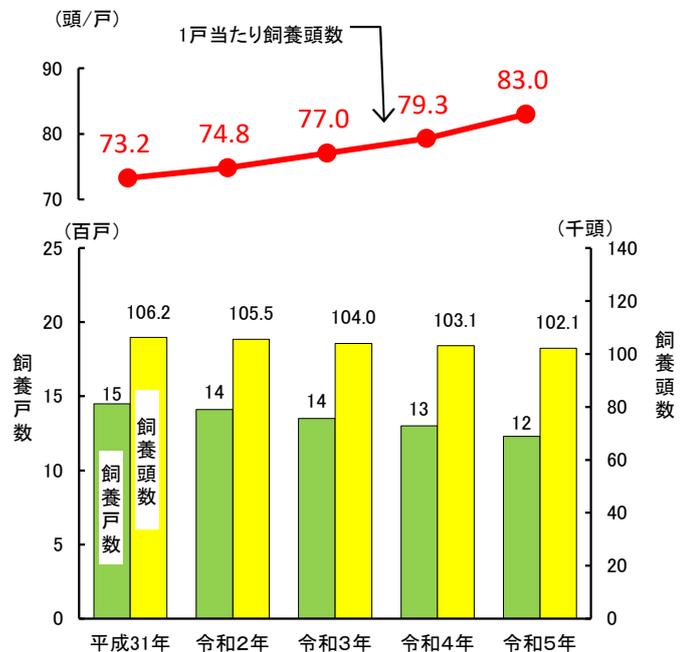
【乳用牛】

乳用牛の飼養頭数は近年減少傾向で推移しており、令和5(2023)年は前年に比べ、1,000頭減少し10万2,100頭となりました。県別の飼養頭数では熊本県が全国3位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合
(令和5(2023)年2月1日現在)



飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)

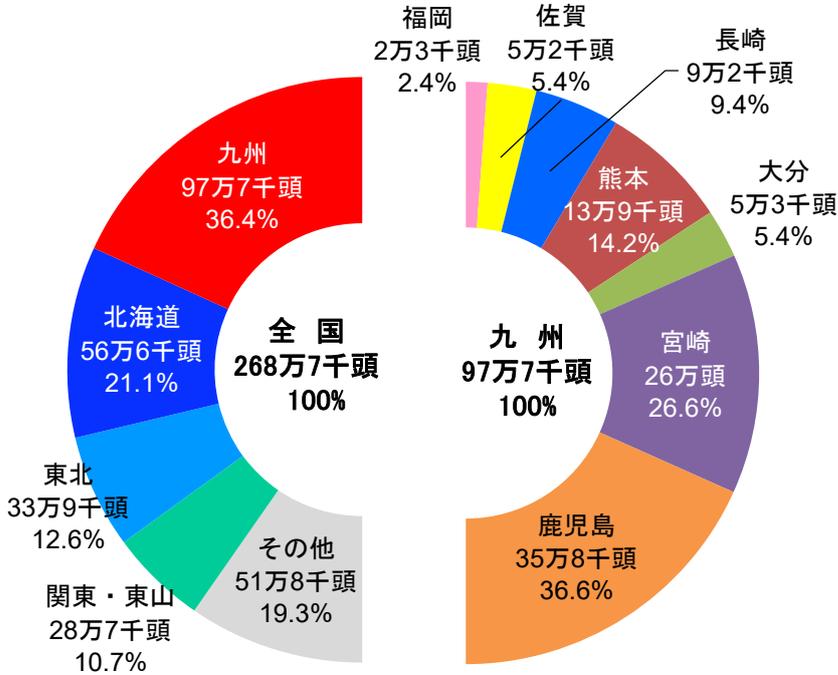


資料:農林水産省「畜産統計」

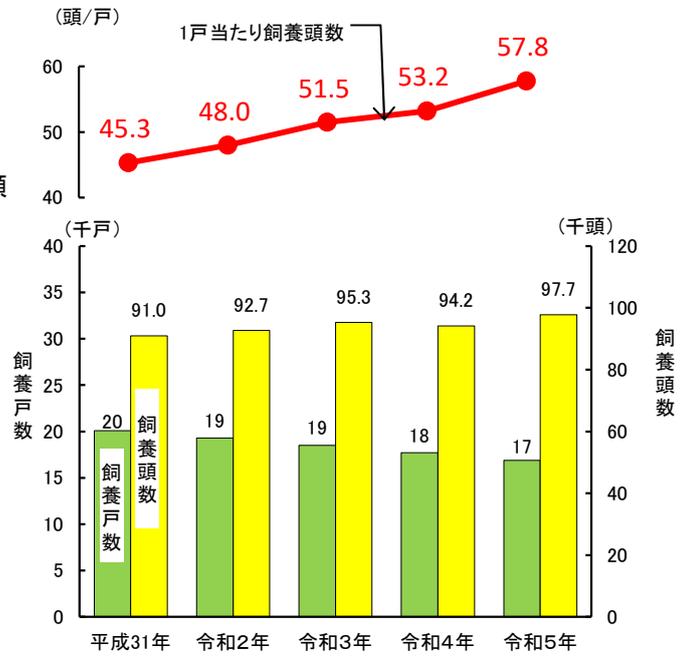
【肉用牛】

肉用牛の飼養頭数は、各般の生産基盤強化対策の実施により、平成29(2017)年から令和3(2021)年まで5年連続で増加し、令和5(2023)年についても前年に比べ3万5,700頭増加し97万7,400頭となりました。九州は全国の飼養頭数の3分の1強を占めており、県別の飼養頭数では鹿児島県が全国2位、宮崎県が同3位、熊本県が同4位、長崎県が同5位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合
(令和5(2023)年2月1日現在)



飼養戸数、飼養頭数の推移 (九州)

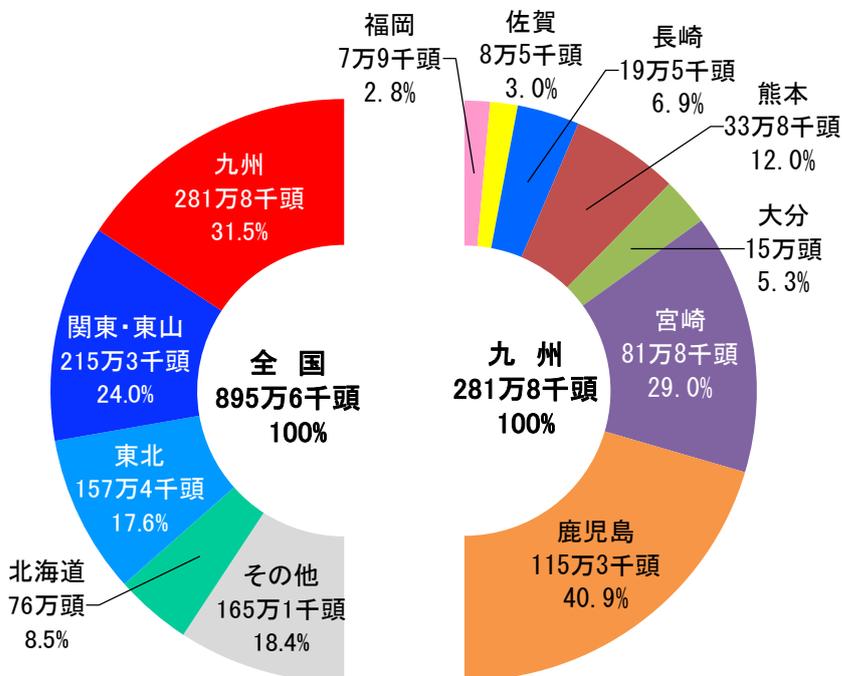


資料：農林水産省「畜産統計」

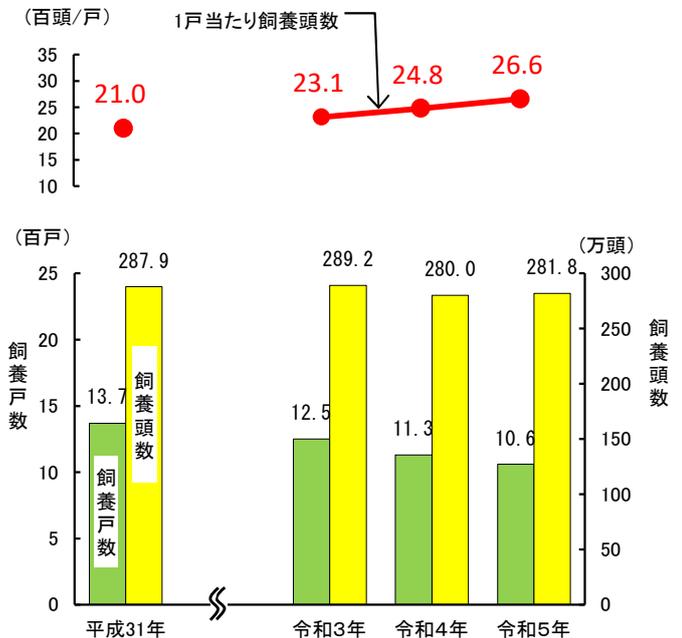
【豚】

飼養頭数は微増傾向で推移しています。令和5(2023)年は前年に比べ1万8,000頭増加し281万8,000頭となりました。県別の飼養頭数では鹿児島県が全国1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合
(令和5年(2023)年2月1日現在)



飼養戸数、飼養頭数の推移 (九州)



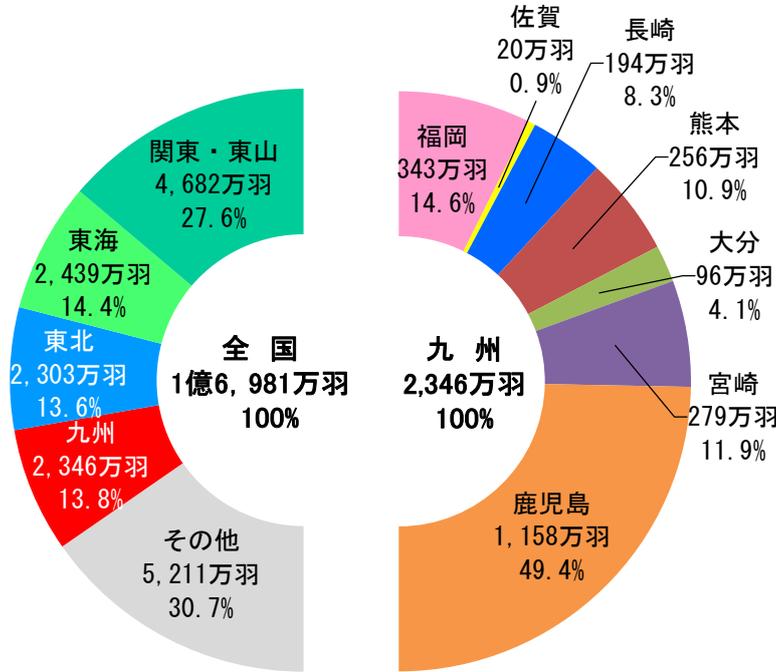
注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「豚」の調査休止。

資料：農林水産省「畜産統計」

【採卵鶏】

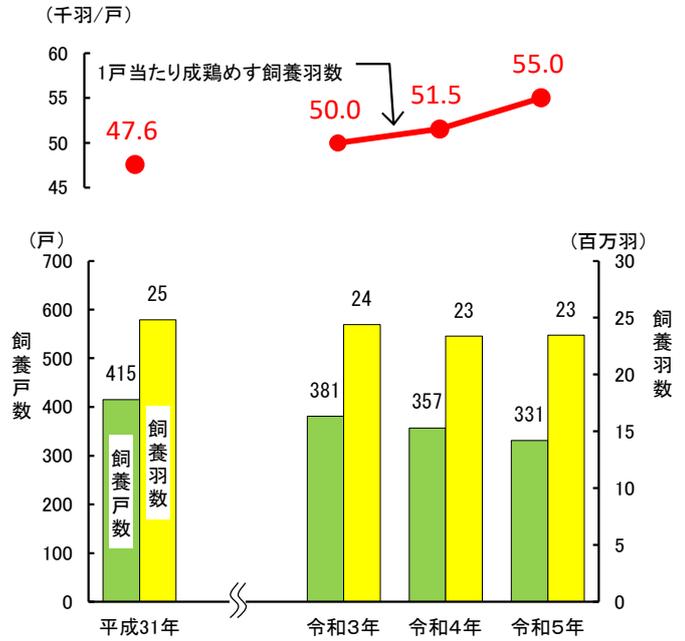
近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、令和5(2023)年は前年に比べ91,000羽増加し2,345万9,000羽となりました。県別の飼養羽数では鹿児島県が全国3位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合
(令和5年(2023)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)

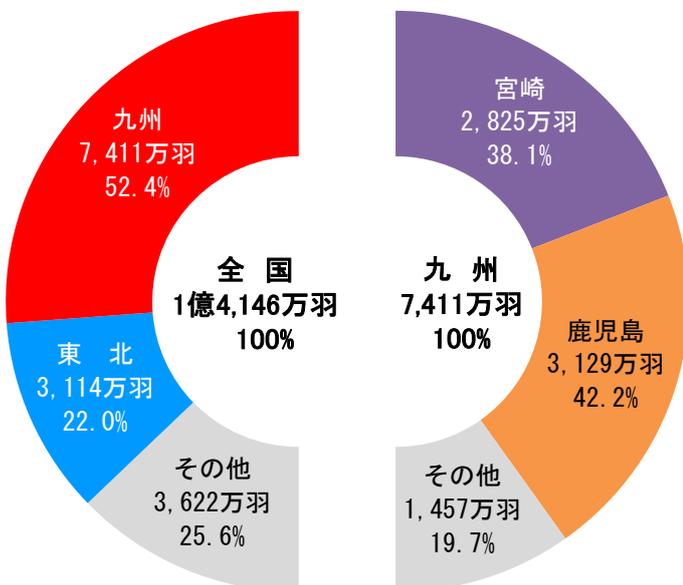


注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「採卵鶏」の調査休止。

【ブロイラー】

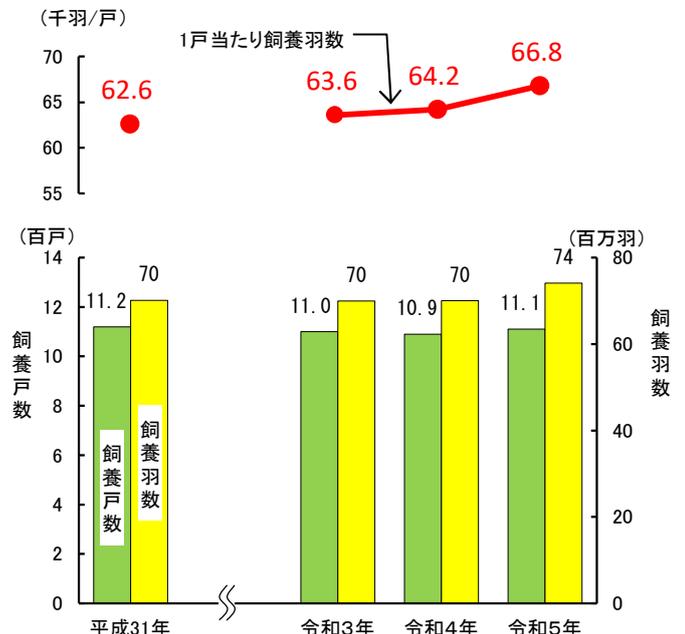
近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移していましたが、令和5(2023)年は前年に比べ408万7,000羽増加し7,411万羽となりました。県別の飼養羽数では、鹿児島県が全国1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合
(令和5年(2023)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「ブロイラー」の調査休止。